

会員の声

なぜ無作為化比較試験が活動報告なのか？

フクダ ヨシハル
福田 吉治*

日本公衆衛生雑誌 2023; 70(10): 727. doi:10.11236/jph.23-061

本誌第70巻第3号に掲載されている「手紙と電話による特定保健指導の利用再勧奨の効果：都市部における保健指導利用に積極的な層への無作為化比較試験」は、論文の種類が「公衆衛生活動報告」です¹⁾。無作為化比較試験（RCT）は、公衆衛生の“活動”や実践報告ではなく、研究・調査に該当するのではないかと思います。確かに、地域が限定され、人数も多くはありませんが、どのような理由でRCTの論文が公衆衛生活動報告になったのが大変気になります。

上記のように、地域や人数の限定などにより、研究内容に課題があり、その解釈に留意が必要であるならば、編集委員や査読者からのコメントをつけた方がよいではないでしょうか。たとえば、「特定保健指導の利用勧奨をいくら行っても、その内容が魅力的なければ、利用は増えない。それは、一般の商品と同じで、売れない商品をいくら宣伝しても売れ

ない。利用勧奨よりも、特定保健指導そのものの内容を充実させたり、利便性を高めたりすることが大切ではないか。」などのように。

以上、RCTを「公衆衛生活動報告」とした理由等について、編集委員の意見をうかがいたい。

本稿について、開示すべきCOI状態はない。

（ 受付 2023. 6.30 ）
（ 採用 2023. 7.26 ）
（ J-STAGE早期公開 2023.10. 5 ）

文 献

- 1) 村山洋史, 嶋田誠太郎, 高橋勇太. 手紙と電話による特定保健指導の利用再勧奨の効果：都市部における保健指導利用に積極的な層への無作為化比較試験. 日本公衆衛生雑誌 2023; 70: 381-389.

* 帝京大学大学院公衆衛生学研究科
責任著者連絡先：〒173-8605 板橋区加賀2-11-1
帝京大学大学院公衆衛生学 福田吉治